

いいむれっ子だより 5月号



人を育てるということ

校長 友生 雅夫

1 か月が過ぎました。子どもたちもゴールデンウィークが終わり、先週は疲れがあったようです。わたしたちもそうですが、4日間、よく頑張ったと思います。土曜日は、授業参観と引き渡し訓練がありましたが、お家の方と歩いて登校する様子も見られました。授業参観では、子どもたちが意欲的に発表する場面も見られ、良かったなと感じているところです。

さて、上のタイトルは、1年前にも挙げたものです。わたしは、30年ほど前、この職に就きました。わたしの学校は、学年2クラスあり、1周り年上の先生と同学年になりました。厳しいでした。授業参観もたくさんしていただきましたが、板書のこと、ノートの書かせ方など授業をどう進めるのか細かく指導してくださいました。指導がうまくいかず、悩みましたが、5回目の研究授業で、「今日の授業は良かった」と言ってもらえたことが忘れられません。自分に足りないことも多かったですが、その先生、指導教員の先生、教頭先生などいろいろな先生方に助けていただきました。

また、クラスやサッカー少年団の保護者、近くに住んでいた方などたくさんの方に支えていただきました。家にうかがう機会も多く、温かく迎えていただきました。その時期があり、教員を続けられていると思います。

先輩の先生が、「先生の仕事で大切なことは、人を育てること」と教えてくださいました。学校で年齢も上になり、「先生方を育てる」重みを感じます。第4期日置市教育振興計画の「風格ある教育」の1番目が、「魅力ある学校づくり」になっています。そこで、わたしが大切にしたいのは、「魅力ある授業」です。授業参観をしていて、楽しい授業は、「先生も楽しんでる授業」や「子どもが活発に意見を交流し合う授業」だと感じます。もちろんそれ以外にも楽しい授業はあります。ただ、そういう授業は、教師1人ではできませんし、一朝一夕にもできません「先生方を育てる」ということは、先輩の先生方に教わったところから変化しています。先生方と十分に話し合い、試行錯誤を繰り返して、「魅力ある授業」を作っていきたいと思います。

「子どもたちを育てる」ことも簡単ではありません。人権同和教育の中で、「MOM（見つめる、思いをめぐらす、向き合う）」という基本姿勢があります。特に「見つめる」の姿勢を大切にしています。校門に入るとき、元気がなかったり、浮かない表情をしたりしている子どもを見かけます。具合が悪い、お家の方とけんかした、テストがあるから嫌など理由はさまざまです。変化に気づき、担任、養護教諭などに伝えていますが、授業参観したり、保健室に来室したりするなどが続く場合は、原因を探る「思いをめぐらす」部分までかかります。担任、養護教諭、他の職員を含め全職員で原因を知ろうとしたり、共有したりすることで深く子どもを理解できると考えます。

「飯牟礼の棒踊り」の話を地域の方にいただいたとき、大人や子どもが踊る様子を見て、「ぼくもまた踊ってみたい」と話す子どもがいました。子どもがどうしたら落ち着いて学校生活を送ることができるか常に念頭に置きながら、ふるさと飯牟礼を大切にできる心を育てていきたいです。

